

小5社会 「“一斉”ではない“新たな”協働学習への挑戦～社会科×グループ学習×オクリンクプラス～」



オクリンク
プラス

- 前半は「提出BOX」で学習のベクトルを全体でそろえる。
- 後半は「みんなのボード」で教師はリアルタイムで見取りつつ、お互いの班の結論を参照できるようにして班ごとの差を埋め、多角的な視点でまとめられるようにする。

活用背景・ねらい

- 近年「協働的な学び」と「個別最適な学び」が注目されているが、私は「学校での学びの本質は協働だ」と考えている。しかし「一斉授業」で多様な子どもたちの足並みを揃えて学習するのも限界があると感じていた。
- そこで、一人一人の興味関心に合わせた学習ができるようにしつつ、自立した学習者としてのスキルも身に付けられるような「“一斉”ではない“新たな”協働学習」の形を模索し、実践してきた。

成果・効果

- 単元テストの点数が向上した。特に「思考・判断・表現」での成績向上が著しい。
- 教員の意識が「“深めの発問”で再思考を促すこと」から「“自立した学習者”に育てるため【学び方（思考の深め方）】を身につけさせること」に変わった。

授業・取り組みの流れ

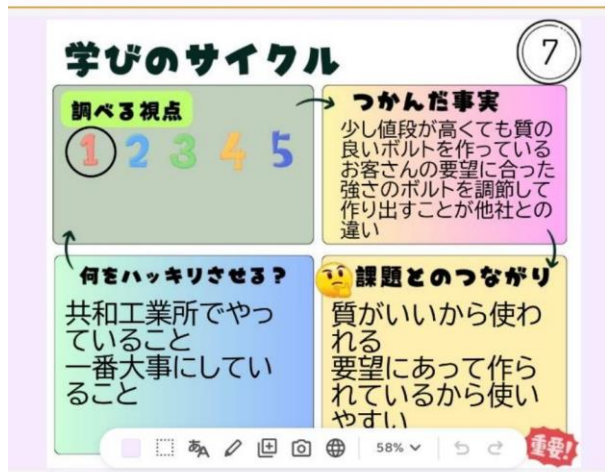
前にもどる 提出BOX(2024年12月13日5時間目の授業)



授業導入で本時の課題〈なぜ中小工場の（企業名）の製品が一番売れているのか？〉を作る。児童は課題に対する予想をそれぞれカードに書き、氏名非表示の状態で公開されている「提出BOX」に提出。提出した児童から「提出BOX」を開き、順次送られてくるみんなの予想を見ながら「●●の予想が多い/に納得。だから【調べる視点】を調べたい」の型で整理・分析し、【調べる視点】をノートに書く。

その後、【調べる視点】を全体で口頭発表して、【調べる視点】を整理・共有して、学びのベクトルを揃える。ここまでは一斉授業で行う。

ド作成



ここからはグループ学習。班ごとに【調べる視点】を1つ選び、『学びのサイクル』のスキーム（調べる視点→事実をつかむ→課題とのつながり→さらに気になること）に従って調べ学習を行う。教師は『学びのサイクル』の4ステップの枠組みを配置したカードを班の数だけ連結させた「まとめカード」を「みんなのボード」に作成しておき、児童は自班の「まとめカード」に話し合いの内容を記録していく。「みんなのボード」を使うことで、教師がリアルタイムで見取りができるようになる。また、使用する端末は各班1台とし、班のみんなで話し合える環境をつくることも大切。

授業終了7分前に、全員が自分の端末で「みんなのボード」を開き、他の班の結論を確認する。自班での話し合いの経緯と、他班の結論を踏まえて、各自がノートに本時のまとめを書き、書き終わった児童から口頭発表する。